

(様式1)

令和2年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	「一人一人の可能性を最大限に伸ばし、明るく柔軟性があり、進んで学び、思いやりのある児童生徒をはぐくむ」	学校整理番号	特18
(2) 現状と課題	本校には、重度心身障害や精神疾患等を有する児童生徒が在籍しており、病気や障害、学習習熟度等、非常に多様である。これらを踏まえた教育課程を設定するとともに、個々の教育的ニーズに適切に対応するための教員の専門性の向上に取り組んでいる。児童生徒の効果的な指導に向けて、隣接する青森病院をはじめ医療機関との連携を密にするなど、良好な関係を図る必要がある。これらのことから、1～4の項目を重点目標とした。	学校名	青森県立浪岡養護学校
(3) 重点目標	1 健康・安全管理、防災管理及び危機管理の充実	対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・ <u>病弱</u>
	2 授業の充実及び学習の保障	自己評価実施日	令和 2年 12月 18日(金)
	3 教職員の専門性の向上	学校関係者評価実施日	令和 3年 2月 16日(火)
	4 保護者、関係機関、地域との連携	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
(4) 結果の公表	保護者によるアンケート結果と改善への取り組みを、学部ごとの参観日において説明するとともに、文書を配付した。 地域住民に向け、学校評価結果を学校ホームページに掲載する。	隣接病院長 障害者支援施設長 地域交流センター館長 近隣保育園長 PTA副会長	

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	健康・安全管理、防災管理及び危機管理の充実	①児童生徒の体調管理 ②感染症等に対する速やかな対応 ③災害時や緊急児の安全確保	新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症予防のため、児童生徒、教職員の健康観察の徹底、校内消毒の徹底などを全教職員で行うことができた。また、感染者や濃厚接触者が発生した場合の対応について全職員で共通理解することができた。 危機管理マニュアルの見直しを行い、改訂することができた。	A	万が一、学校関係者から感染症の感染者や濃厚接触者が出た場合の対応について、マニュアルをまとめ教職員間で共通理解しているということで安心した。	感染者や濃厚接触者が発生した場合の対応を定期的に確認するとともに、校内の消毒、健康観察、換気、手洗いうがい、マスクの着用など基本的な感染予防の徹底していく。 危機管理マニュアルに沿った種々の訓練を実施する。
2	授業の充実及び学習の保障	①児童生徒の実態及び発達課題に適した教育内容の設定 ②ICT機器、支援機器等を活用した効果的な指導の工夫	発達段階検査や知能検査等様々な検査を通して実態把握を図り、重症児であっても根拠のある学習指導に取り組むことができた。 青森病院に入院している病棟生に関しては、1年間ほとんど直接会って授業を行うことができず、実態把握もままならなかったのが事実である。しかし、学校と病棟をICTでつなぐ形で「リモート授業」を行うノウハウを確立できたことは成果であった。	B	コロナ禍であっても教職員が様々なアイデアを出して授業作りをしていることがわかった。特に廊下や教室内の掲示物などについては以前に比べてグレードアップされている。何より以前に比べて学校全体が明るくなったような感じがする。	精神疾患、心身症等を有する児童生徒の学習保障を考える必要がある。障害や病状の理解、対応については学級担任だけで対応するのではなく、学部、学校全体での共通理解のもと対応を進めていくことが必要である。

3	教職員の専門性の向上	①授業力向上を目指した教員相互の学び合い（OJT等の活用） ②計画的かつ主体的な校内学習会の設定	研究ニーズに応じたグループを学部を超えて編成し、「一人一研究」のテーマのもと校内研究を行ったことで、多角的な意見交換をすることができた。また、小グループで問題解決にあたることで同僚性も高まった。 コロナ禍により外部講師等を招聘した校内研修を行うことは難しかったが、長期休業中等に、様々なテーマでの校内研修会を計画的に行うことができた。	A	様々な病気、障害種の児童生徒が在籍する中で、それぞれに必要な専門性を身につける必要があることがわかった。そのために様々な研究や研修を実践していることがわかった。	教職員の専門性の向上をめざし、専門的・実践的指導力を高めていくために、計画的な研修・研究を行う必要がある。今年度の研修は小グループでの「一人一研究」のテーマのもと進められ研究発表も行うことができた。次年度はより実際の授業に生きる実践的な研究、授業力の向上を目指していく必要がある。
4	保護者、関係機関、地域との連携	①児童生徒のニーズに応じた指導、支援のための連携 ②青森病院及び他の医療機関との連携	児童生徒に関わる教育支援会議は、感染症対策を取りながら、保護者と学校を中心に、必要な場合は関係機関にも参加してもらって行うことができた。 コロナ禍であっても、必要な対策を取りながら、地域との繋がりを大切にしたり行事や交流活動を行うことができた。 青森病院との連携については、病棟閉鎖の影響直接対面しての授業はほとんど行うことができなかったものの、リモートでの授業を行いながら、病院の保育士や支援との連携を深めることができた。	B	ねぶた交流会、りんご生産活動等、中止するのではなく「どのような感染防止対策をすれば実施できるか。」という視点に立って実施でき、児童生徒の笑顔を見ることができたことは、地域にとってもうれしいことだった。 青森病院の病棟閉鎖については、現在の状況を考えると、しばらくは続くものと思われる。リモート授業等情報共有しながら今できることを模索して欲しい。	青森病院の病棟閉鎖については今後もある程度続くことを想定し、情報の共通理解を図りながら病院との連携を強めていく必要がある。どのような方法で教育を保障していくか、共同歩調で進めなければならない。 感染状況を把握しながら次年度も地域と連携した事業を考え、実践していく。
(11) 総括		コロナ禍で、予定していた教育活動すべてを行うことはできなかったが、全体的に保護者、教職員共に高い評価結果が出された。学校運営は当初の目的を達していると判断できる。校内研究では、教職員が高い意識を持ち、それぞれの課題解決に向けた取り組みを行うことができた。本校の教員としての専門性の向上に加え、児童生徒の実態に即した授業の充実が図られておりその結果が保護者からの高い評価につながったと言える。課題としてあげられるのは、今後も続くであろうと思われる青森病院の病棟閉鎖に対応した教育方法、教育内容の検討である。また、特に不登校の児童生徒への対応、教育課程の検討、キャリア教育に関連した進路に関する考え方等についても検討していく必要がある。今後、教職員が学校課題に対してそれぞれの役割をより一層意識して取り組むことが大切であると考え。				